



森とせせらぎネット代表 松本浩次郎

ネットとしての維持管理と 総力を上げて諸課題にあたる!

森とせせらぎネット代表 松本浩次郎
 新年度に 寄せる思い
 会員相互と地域の皆さんのスクラムでネット役員が汗を流す。

「森とせせらぎネット」は創立10年を経過しました。この間、平井資嘉壽さんが代表を務められ、「灯籠流し」が江川の夏の風物詩を彩り、「せせらぎ祭り」が地域に定着してきました。平井さん亡き後のネット役員体制を協議した幹事会で、“あんたはまだ働きが足りないよ”と女性幹事にハツパをかけられ、さすがの私もこれには奮起し、止む無く代表を引き受けました。

十年前に川崎市が、江川せせらぎ遊歩道を開設しました。“これは、好いモノを造ってくれた”と思い、私の住む明津町のボランティア部に率先参加し、毎月の清掃作業に休みなく参加してきました。明津のボランティア部は【毎月第二、第四の日曜日、朝7時から2時間、明津の担当エリア約900平の除草・清掃作業を行い】毎回20〜30名が活動に参加しています。



江川に近接する町会の皆さんによる清掃活動(子母口北町会)

ご存知の通り江川せせらぎ遊歩道の維持・管理・運営は、周囲10町会が担当しており、其々の町会がそれぞれの体制で清掃作業や花植え作業を行い、四季の美しさや楽しさを保ってきたと思います。明津ボランティア部は自分たちでは出来ない「高木の枝おろし」や「土砂流れ」の対策を公園事務所をお願いして対応しているのですが、あまり問題がないようですが、他の9町会も色々努力されているの

で、とくに市や管理事務所にお願する事項はないのでしょうか？そう考えると私自身が周辺町会の方々と、こうした「江川せせらぎの維持管理」について、話し合ったり交流したりしたことがありません。

平井さんは地元の笑話会の方々と、祭りの開催と定着に努力されましたが、「ネットとしての維持管理活動」にどのように尽力されたかは聞き漏らしました。代表を引き継ぐに当たり、その辺から始めようと思います。

要望や意見に 耳を傾けて

まずは中原街道から下の6町会、下小田中4丁目、5丁目、6丁目町会と子母口町会、子母口南町会、明津町会(「管理棟の倉庫」が使えないか、との要望あり)に伺って、ネットとしてお役に立つことがないか、という話し合いから始めようと思っています。これは代表一人ではなく、ネット役員全員で取り組みたいと思っています。

第十一次定期総会

引き締まる総会 盛り上がる花見会
 平成二十七年定期総会が井田神社にて行われ、議案の一部(組織体制を幹事会の承認後)を除き承認されました。



事務局長 田辺勝義
 今年のネットの総会では、年間の柱は、せせらぎ見学会、灯籠流し(八月二十一日(日))、森とせせらぎ祭り(十一月三日(休日))と決めた。

今年の特徴は、女性の活躍を掲げて松本さんが代表の留任に動く中、副代表に安定した稲本さんに加えて女性の柳沢昌美さんを選出したことだろう。

せせらぎネットは、幹事の中谷さん、竹村さん、多賀さんはじめ、灯籠流しにもなれば徳田さんはじめ吉田さん、河野さんなど女性陣がキットづくりや販売に活躍し、

はがき絵などの展示会でも活躍しているが、重要な面での活躍をということで柳沢さんに白羽の矢が立ったのであった。女性陣の活躍に期待したい。



一部のお花見会の司会は菊地さんが受け持ち軽快な進行で盛り上がり、フラダンスや、稲本さんの詩吟、遠藤さんの民謡と続き、松

本・須山さんがダンスを披露
 また、若者の田辺さんをあれこれ質問攻めにするなどの一幕もあった。最後に女性の中谷さんが挨拶し、盛り上がりの中で終わった。

一年間の活動の見通しと活力が見えた第十一次定期総会であった。

定期総会を経て 各部長の抱負を

- 広報部長 遠藤正久
- 行事部長 田辺勝義
- 総務部長 田辺達夫
- 文化部長 中谷優文
- 交通部長 菊地清

広報部



ネットニュースは、年4回の発行です。

日頃、会員の皆様、各団体関係、学校関係の方々には大変お世話になっております。身近な情報や掘り下げた内容を適格に又タイムリーにお届け出来ればと思っております。

ご愛読頂きまして是非、感想等お聞かせください。

行事部



今年は、行事部に専念できます。総務財政部会については、田辺達夫さんに任せる体制になりました。行事は例年通りの活動になりました。今年も「せせらぎシンポジウム」の代わりにせせらぎ下部の貯留管見学会を行います(日程未定)。

夏には恒例の「灯籠流し」が八月二十一日(日)に行われます。昨年もかなりの人出で、定着しつつあるのを実感していますが、今年も小学校の生徒がキットづくりに参加してもらえないかと考えて

います。子ども達に評判のたらい舟も出す予定です。

十一月三日(休日)文化の日に、橘公園とせせらぎ沿線で、第十回「森とせせらぎ祭り」を行います。

少ないスタッフを補充しながら、(雨でも)人が集まるような質の高い舞台などを創り上げたいと思っています。できれば新城公園も使いたいと思っています。

そして、スローガンの「子ども・未来 地域・ふれあい 水と緑の故郷づくり」に接近し、人の顔が見え、文化の香りがする、ずっと住んでいたいと思うような地域に故郷にしていきたいと思っています。

文化部



新年度を迎え真新しいランドセルを背負った新一年生が元気に学校へ通う姿が見受けられる様になりました。遊歩道の草花も一層輝きを増し、散歩する人々やウォーキングする人達を和ませてくれます。

せせらぎ文化部でも四月から一年の始まりです。はがき絵展が開催されました。年間を通じて管理棟前では色々な展示物行事を行っています。子供たちに取って思い出深い魅力的な場所となる様、活動を続けて行きますので今後共宜しくお願い申し上げます。

交通部



交通部は、毎年地域の行事として八月に夏の風物詩「灯ろう流し」そして、十一月には橘公園をメイン会場の「森とせせらぎ祭り」の開催時、歩行者の安全と交通誘導を行います。

「灯ろう流し」は、下小田中の交通部が担当し「森とせせらぎ祭り」は、町内会の経験者や有志でメンバーを構成して担当しています。近年、天候に左右されて大変でしたが昨年は、天候に恵まれ人出と自転車多さで奮闘しました。今年も無事故で頑張ります。

総務部



ネット会員の名簿作成や各団体関係の名簿、会議参考資料の準備と気が抜けません。

ネットの活動を把握し支障が無い様勤めます。個人情報に関しては、細心の注意を払います。

近隣町会紹介コーナー 蟹ヶ谷

特派員 田中達也

江川せせらぎは小関橋より西の方角へ、お鮎屋さん「七五三鮎」が目印の信号を渡り、せせらぎの流れが最後に流れ込む矢上川の橋を渡れば、丘陵地から谷戸の地形が続く場所が「蟹ヶ谷」です。



名物のドーナツ坂

その丘陵の丘は、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が多数発見されており、蟹ヶ谷でも前方後円墳が発掘されています。地名の由来には諸説ありますが、丘陵の神庭（かにわ）がなまって付いた説、地形の谷戸には湧き水が湧き、サワガニが多く住み着いていたことから、蟹のいる谷戸という意味でついたとか。中世には当地を鎌倉道が通り、かの源頼朝が鞍をかけたと伝わる松の樹があり、江戸時代には江戸の街に必要な燃料（薪、炭）を作る農家のある水田や畑の広がる場所であったそうです。



上「写眞は、昭和二十一年蟹ヶ谷中ノ町」の風景です。

疲れ知らずで毎日が充実！

蟹ヶ谷に住む菊地清さん（79歳）から投稿原稿があり紹介を致します

私の健康法 投稿原稿

健康の源は、睡眠、運動、食事の三拍子でこれを維持することはこれから至難の業です。今まで、背柱管狭窄症の手術ぐらいで大病もなかったのが不思議でした



背柱管狭窄症の腰手術入院先

身体に気を使う年令なので、毎朝起きたら冷たい水を一杯飲み、就寝前にも飲んでいただきます。食事は、

細くならない様に三食偏食しないように心がけています。数ヶ月前に友人からの勧めで「黒にんにく」を毎朝食してから気分的に元気です。今年、平均寿命に到達し、これからが正

せせらぎ物語 第5話

洪水対策の雨水貯留管工事始まり、せせらぎの話出る

田辺勝義

一九九〇年頃になると、洪水対策のための貯留管工事が進む中、上部にせせらぎが出来るという話なので、下水道局担当者から「親水緑道計画」についての説明を受けました。その内容を「準備会ニュース」を発行して、地域や町会の人に広く知ってもらいました。そして、前回紹介合意に基づいて、九十一年八月に「江川の水と緑を考える会」が発足したので



江川せせらぎの模範になった小松川境川親水緑道



話を聞いて学ぶこと、になりました。

その時、東京江戸川区にある「小松川境川親水緑道」は素晴らしい先進事例であることを知りました。小松川には3回行っています。それは素晴らしい親水緑道であり、江川せせらぎづくりの模範となると思っただけです。早速その年の十一月に十三名で見学に行きました。

見学後、当時の代表の田辺勝さんは、「やればできるものだ。自然を取り戻す運動である江川の会の運動もこれで弾みがつく。川崎市も研究して努力してほしい。」そして、市の担当者は私達の情報と要望に応じて、そこに見学に行ったことを後で知ったものでした。

シベリア鉄道とバイカル湖の旅

続編

松本浩次郎

日露戦争が勃発すると、ロシア帝国は極東に駐屯するシベリアコサック軍を動員し、満州での会戦に参加し、威力を発揮し、二百三高地の防衛で活躍した。ソ連はコサックを認めず、大多数のコサックが消滅した。チエチエンやウクライナなどに今なお民族問題を抱える多民族国家・ロシア。「コザック任侠団体」の運命はかくのごとく消え去ったが、その開拓者精神は如何に？

広大なシベリア原野と透明なバイカル湖の澄んだ水の中に、恩讐の消え去らんことを祈らずにはいられなかった。

領土問題

ツァーの第一日と、帰る前日に、ハバロフスクを観光のアムール川岸散歩とミニ・クルーズだった。「フキ口先は中国領で、アムール川は黒竜江のこの辺りの中州では、元々は中国人や満州人がこの川を使い、毛皮などと中国産品を交換する取引を行っていたが、シベリアへ進出したロシア人と取引や領土をめぐる争いが起こった。中露条約で清国領が割譲され現在の国境線が定められた。その後アムール川とその支流にある多くの島や中洲を巡って、中ソ国境紛争が発生したが、ロシアのゴルバチョフと中国の胡錦濤が協議し、こ



の地域の国境が確定し、対立は鎮静化した。現地ガイドのサハリン生まれで

（樺太）ロシア国籍の李さんが説明してくれた。この旅行の途中で、広大なシベリアの大地に触れたわれわれの仲間から、現地ガイドのナターシャに質問が出た。「こんな広大な領土を持つロシアが、なぜ北方四島に拘るのか？」

続きは、次号でお楽しみ下さい。